

市第94号議案「平成21年度横浜市一般会計補正予算（第8号）」
（関係部分）

バイオ医薬品研究開発拠点整備支援事業について

国の第1次補正による補助金を受けて、(財)木原記念横浜生命科学振興財団が、横浜サイエンスフロンティアで行うバイオ医薬品の原料となるタンパク質製造施設整備に対して、バイオ産業の振興と関連企業の集積促進を図るため、整備費の一部を無利子で貸付けます。

*バイオ医薬品：バイオテクノロジーを活用して作られる、タンパク質等を主成分とした医薬品。インシュリン、インターフェロン等が代表例

1 整備概要

- (1) 整備内容 鶴見区末広町「横浜バイオ産業センター」内の約800㎡を改装し、タンパク質を培養・精製するプラント等を整備
- (2) 整備総額 750,000千円（国500,000千円、木原財団52,100千円、市197,900千円）
- (3) 市貸付金 197,900千円（**21年度補正：52,100千円**、22年度：145,800千円）
- (4) 貸付条件 無利子、3年据置、10年償還
- (5) しゅん工 平成23年3月末予定

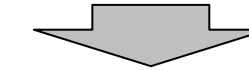
*タンパク質製造プラントのイメージ



2 整備趣旨と効果

○「横浜サイエンスフロンティア」はタンパク質の基礎研究分野では全国をリードする拠点
⇒医薬品開発などの産業面での具体的な事業化を図ることが課題

○バイオ医薬品は、今後大きな成長が見込まれる分野
⇒厚生労働省基準を満たすバイオ医薬品の原料となるタンパク質を、ベンチャー企業等に製造・供給できる施設が国内にないことが課題



○国と本市の支援により、木原財団がバイオ医薬品研究開発拠点を整備
○専門的なノウハウを有する民間企業が「事業協力者」として運営（公募選定）

適量・安価にタンパク質供給



○ベンチャー企業等のバイオ医薬品開発を支援・促進



○理化学研究所や横浜市大等とタンパク質の製造ノウハウに関する共同研究や新しい医薬品の共同開発を促進するとともに、研究者とバイオベンチャー企業等の連携体制を構築し、横浜をバイオ医薬品産業の一大拠点として確立する。

(参考)「横浜サイエンスフロンティア」位置図

